

夢追い人

質の高い仕事で 商品販売のお手伝い



部屋に設置したイメージを
想定してライティング



完成画像

（有）緑CMスタジオ
常務取締役 貞苺清さん

（有）緑CMスタジオは一九二七年創業。屋号に緑が付くのは、祖父虎吉さんが修業先から独立する際に、師匠から三原色のみどりを与えられたことに由来するそう。インテリア関連商品撮影が売り上げ全体の九割を占める。そこで駆使するデジタル画像処理・合成技術は卓越している。他の追従を許さない。しかも安価だ。他に建築用の記録写真、飲食店のメニュー・ホームページに掲載する料理写真も得意としている。もっともほかの写真スタジオのように人物写真も撮影する。

三代目で常務取締役の貞苺

清さんにお話を伺った。

さて緑CMスタジオでは二〇〇二年からデジタル画像処理技術を導入している。メーカーや小売店のホームページでのインターネット販売が普及する中で、エンドユーザーの視点を大切にしたイメージ画像に力を入れる企業が増え、よりクオリティの高い画像が求められるようになったからだ。

では、デジタル処理のメリットはなんだろうか。一つは「人間の目に見える景色に近づけること」だそう。カメラのレンズがとらえる景色は人間の目に映る景色と異



イメージ撮影の時は、
仕上がり画像を想像しながら。



大川匠の世界コレクション
2014 in TOKYO



ブース撮影 来場者や通路、階段が背景となるため、カタログ用に背景を作成

なっているのです。だから光の量を変えながら何カットも撮影し、室内や背景をいったんばらして合成し直し、『人間の目』の感覚に近づけることで、スタジオ撮影では出せない雰囲気や生活感に溢れたイメージ写真が出来ます。』と言われる。

そして別のメリットは労力をかけなくても済むようになったこと。「以前はスタジオ内に幅十二メートル高さ六メートルのハリゾンド（背景に使う白い幕）が必需品でした。部屋撮りの場合は、そこに床、窓などの内装を組み上げ、スタッフ総掛かりの大工仕事でした。」



デジタル画像処理によりロケーションの手間をなくす

「試作品を用意しなくても素材のサンプルと仕様書があれば、完成品のような写真を作ることができるのです。しかもサイズや素材、デザインを自在に変えることができます。今では、デジタル編集を勉強した若い人が企業に入り、ある程度浸透してきましたが、私自身、設計事務所勤務経験が有るので、デジタル導入当初からお客様の要望に応えることが出来るのです。」

大川の主な展示会に出品する遠方の家具メーカーの多くは、展示会一カ月前ぐらいに、サンプルと仕様書を緑CMスタジオに送ってくるという。「完成品画像作成の依頼です。これによって展示用試作品が少なくて済み、製品移送費もそれほどかからないのです。」

そして今、緑CMスタジオのホームページを見た、北陸や東北など各地の家具メーカーからも注文が増えてきているそうだ。



破れやキズ
日焼けした写真も鮮明に

ところが今、緑CMスタジオのホームページを見た、「これからも大川のインテリア業界に係わって、企業の顔ともいえる商品撮影やイメージ画像作りの面で貢献していきたいと願っています。そのためスキルアップを図りながら『質の高い仕事で商品販売のお手伝い』をモットーにカタログやネットを通じて、日本だけでなく世界中に発信されていく大川家具のすばらしさを伝えていきたいですね。」

<http://midoricmstudio.web.fc2.com/>